

大船駅東口に エレベーターが 設置されます

大船駅東口に、やっと、エレベーターが設置されることになりました。

これまでは、エスカレーターが1基しかありませんでした。

そのために、東口から車いすで下りようとする時には、エスカレーターの横にあるボタンを押してルミネの警備員さんに来てもらい、ルミネの中を通り、店内の奥にあるエレベーターでいったん上がり、そこで荷物用のエレベーターに乗り換えて、1階まで下ろしてもらわなければなりません。

あれでは、東口を利用する方々には、その利用のしかたもほとんど分かりません。警備員さんたちにも大変なご苦労をお掛けしていました。それに、時間も大変かかりました。

私などは、遠回りでも、つい、笠間口（横浜市）を利用したくなります。

しかし、東口は、大船駅のメインのところなのです。多くの方々が利用される場所なのです。

紀伊国屋→寿福寺→海蔵寺に 向かう道路が 舗装されます

紀伊国屋から海蔵寺に向かう横須賀線に沿った道路のうち、「鎌工会館ビル」から寿福寺までの道路が舗装されて、きれいになりました。

23年度中には、寿福寺から横須賀線

ガードの所までの凹凸のはげしい道路が、きれいに舗装されることになります。この道路をよく利用される方々から“通りにくい”“歩きにくい”という苦情が出ていました。それも解消されます。

「千さんは、自分がよく使う道路だから、ここの道路整備のことを言いにくいのかしら？」と、よく言われていました。しかし、「そこまで言われては」と思い、ここの道路整備のことを、市に要望しました。

皆さんも歩きやすくなり、自転車も、自動車も、救急車も、あの“いやな、いやな ガタガタ”がなくなります。

「一般質問」を終えて特に気になったこと

(以下に、その内容を抜粋でお伝えします)

今回は、市長部局が行った鎌倉市で初めての事業仕分けについて反省点も含めてお尋ねしていきたいと思えます。

鎌倉市の事業仕分けについて、1、なぜ今年は仕分けが必要だったのか。2、仕分けの目的について。3、仕分けした事業はなぜどうして選んだのか。4、この仕分け人で適切なのか。5、仕分け人の差別的文言。6、仕分け人のアンケート調査について。

《仕分け人の差別的文言》について

事業仕分け第3班。入浴助成、デイ銭湯、浴場補助金。仕分け人の発言

「大枠としてはできるだけ介護状態にもっていかないことが、最終的には市民の皆さんの御負担を減らすことにもなるし、何よりも御本人自体がそういう介護状態になることは不幸なことですから、これをそうしないというのは行

政として責任があるのはよくよくわかるんですけれども」。この仕分け人の文言の中には2つ問題があると思えます。

一つは、「介護状態になることは不幸」という言葉を使っていることです。決して差別的な意味を持って発言したのではないと言われても、その不幸という言葉は、介護を受けている高齢者、障害者などを傷つけることになるからです。介護を受けながら前向きに生きようとしている人はたくさんいます。私を含めそういう方たちの尊厳、プライドを傷つけるものだからです。それは介護を受けるより受けないほうがいいに決まっています。介護を受けようが受けまいが、だれもが普通に生きられる世の中が当然です。

2つ目は「市民の皆さんの御負担」という言葉ですが、そういう気持ちなら福祉制度そのものを否定することになります。

仕分けだからといってどんなことを言ってもいいものでしょうか。こういう考え方が差別を呼び、ノーマライゼーションの社会をつくりにくくするものだと思います。いかがですか。

<瀧澤由人 経営企画部長からの回答>

介護を受けようが受けていまいがだれもが普通に生きられる社会をつかっていくこと、それがまさに行政の担うべき役割であるということは承知しております。しかし仕分け人の発言の趣旨は、市民自身ができるだけ介護状態にならないように努力していたにもかかわらず、介護が必要な状態になってしまった場合、それは本人の意に反する結果であり努力も報われないことから、介護状態になることは不幸なことという、仕分け人御自身も介護する親御さんをお持ちですけど、その思いをお話したというものであり、決して差別的な意味を持って発言し

